大　賞

氏　名　金（キム）　元（ウォン）　龍（ヨン）
(KIM Won-yong)

生年月日　1922年8月24日（70歳）

国　籍　大韓民国

プロフィール

平安北道泰川（ピョンヤンブクドテチョン）（現在は朝鮮民主主義人民共和国内）で生まれ育った金元龍氏は、1945年に京城帝国大学（現ソウル大学校の前身）法文学部史学科を卒業、南北分断、朝鮮戦争の動乱の中、10年以上にわたり国立博物館に勤務する。その間、ニューヨーク大学大学院で東洋美術史研究を重ね、1962年ソウル大学校考古人類学科の教授に就任。以降、国立博物館館長、韓国美術史学会会長、韓国考古学研究会会長、歴史学会会長、文化財委員会委員長、ソウル大学校大学院長等、数々の要職を歴任し、現在はソウル大学校名誉教授、翰林（ハルリム）大学校科学院長の職にある。

第二次世界大戦前、朝鮮半島の考古学研究は日本人によって行われてきたが、戦後、金氏は、韓国人としてその学問的基盤の構築に尽力した。さらに視野を広く東アジア全域にとり、中国や日本等との歴史的関係の中で韓国考古学・美術史学の体系的な位置付けを先駆的に行った。また、学界のリーダーとして主要な遺跡調査に携わり、研究の発展に大きく寄与、後進の育成にも努めてきた。一方、高松塚古墳をはじめ、藤ノ木古墳・吉野ヶ里遺跡の発見の際には、調査やシンポジウム等で来日、示唆に富んだ発言で日本考古学界にも多くの影響を与えている。欧米各地における講演活動も活発で、韓国文化を広く世界に紹介、いわば韓国の顔として国際交流にも著しい貢献をなしている。

主な著作

The Arts of Korea（共著）ロンドン，ニューヨーク，1964　『韓国美術史』1968（邦訳1976）
『韓国考古学概説』1973（邦訳1984）『韓国考古学年報1～14』1974～87
『韓国文化の起源』1976（邦訳『韓国文化の源流』1981）
『韓国美の探求』1978（邦訳1982）『韓国壁画古墳』1979
Recent Archaeological Discoveries in the Republic of Korea　東京，1983
Art and Archaeology of Ancient Korea『韓国美術Ⅰ－古代美術』（編）東京，1986
『韓国考古学研究』『韓国美術史研究』1987　『韓国の考古学』（編）東京，1990
『随筆集　日々の出逢い』東京，1990

（出版地のないものはソウルにて出版）